

被災した方々へ 「いのちのスープ」を 届けたい

こどもの給食を考える会くまもと

代表 **園田 恭子**さん

日頃から子ども達をはぐくむ「食」をより良くするために活動している園田さん。熊本地震発生後は益城中央小学校や益城総合体育館で継続的に炊き出しを行っています。



被災者の健康と元気を支援したい

熊本地震が発生し、避難所に届くおにぎり、パン、お弁当……。被災後数日は命をつなぐために何でもいいで食べるものを支援することが第一です。しかし避難生活が長引くにつれ、栄養の偏りから体調を崩してしまいます。被災した方々へ栄養のある温かい食事を届けたいと、「こどもの給食を考える会」での経験を活かし「いのちのスーププロジェクト」を立ち上げ、身体に優しい安全安心の食材を使った炊き出しの提供を始めました。材料と活動資金を呼びかけたところ、活動に賛同してくださる多くの個人や企業から支援が集まり、毎日の炊き出しを行うことができました。ドイツやハワイからも資金の支援が届いたり、実際に来日して炊き出しに加わ



ってくれたり、あたたかい人々の助けによって活動を続けていくことができます。

徹底した管理と素材のこだわり

集団での生活のため、衛生面には特に気を遣いました。手や調理器具には必ずアルコール消毒を行い、独自の衛生チェック表やアレルギー対策表を作り、毎回チェックを行います。身体も心もほっとする自然なものを食べていただきたいと、使用する材料や調味料も素材にこだわりました。化学調味料は使わず、しいたけやにぼしから出汁をとります。野菜も可能な限り無農薬のものを使い、皮や根もまるごと使用して栄養価を高めます。

顔が見える調理場で

炊き出しを続けていると、少しずつですがそこで生活をしている方々から声をかけて頂けるようになります。「いつもありがとうね」「おいしかったよ」「今日は何のスープ?」「体育館中にいいにおいがしてきたけん、お腹すいてきた」……顔が見える所で調理しているからこそその声です。気持ちを通じ合えると作り甲斐もありますが、「いのちのスープ」は心が通っているからおいしいのだと思います。避難所がある限り続けたいと思っています。